

進捗状況の概要（1 ページ以内）

学内の実施体制

AP事業は、高等教育開発センターが主体となって推進し、事業全体の統括は、高等教育開発センター長が行う。事業全体に関しては、高等教育開発センター長及びAP専任教員が中心となってセミナー・ワークショップ等の企画を立案し、広報、事務手続きに関しては、教育推進課・高等教育開発センター職員が担当する。また、必要に応じて、高等教育推進機構長、教育推進本部長から意見を聴取する。APの取組みに関しては、高等教育開発センタースタッフ会議、教育改革専門委員会（全学レベルの委員会）で進捗状況を報告し、随時内部評価を行う一方で、複数年に1度、外部評価委員への報告を通して、外部評価を行う（平成29年度に中間評価を実施）。

中心となる取組

平成29年度を中心とする取組みは、テーマⅠ：アクティブ・ラーニングに関して、(1-1) アクティブ・ラーニングの普及に関するセミナーの開催（5回）、(1-2) 知識共有システム（「meanings well up from the Question sharing!」以下、meaQsシステムと称する。）の学内外での利用拡大、(1-3) 総合リハビリテーション学類における反転授業の導入と拡大であり、テーマⅡ：学修成果の可視化に関して、(2-1) ワークショップ・他大学と連携した合同フォーラムの開催（それぞれ1回）、(2-2) eポートフォリオシステムの改修、(2-3) 学生調査データの分析とFDに活用する方策の検討であった。さらに、これらの取組みについて、外部評価委員による評価を実施した。

取組の成果

(1-1)に関して、FDセミナー・ワークショップを開催することで、本学の教員のアクティブ・ラーニングに対する理解が深まった。(1-2)に関して、学内においては本学情報システムにmeaQsシステムを導入し、全ての教員が利用できる環境を構築した上で、学内ユーザーのためのシステムデモを行った結果、学内利用者は4倍に増加した。他大学向けには、天王寺研究会（2017.3.31 於：大阪教育大学）、電子情報通信学会教育工学研究会（2017.10.21 於：九州工業大学）、MoodleMoot JAPAN2018（2018.02.21-23 於：武蔵大学）において研究発表やシステムデモを行い学外ユーザーへの広報を行うことに加えて、AWS上にmeaQsシステムを導入したサーバを用意して無償で貸与することによって、大阪教育大学、愛知学泉大学、東海大学福岡短期大学の授業に導入・活用された（meaQsシステムHPは、<http://www.ess.osakafu-u.ac.jp/human/okamoto/squish/>）。(1-3)に関して、反転授業を実施する学習環境の充実に努めた結果、合計35科目の授業において反転授業を実施することができた。(2-1)に関して、SDワークショップ、合同フォーラムを開催することにより、学内外の教職員のIRに関する理解が深まった。(2-2)に関して、学生にeポートフォリオを入力するためのインセンティブを強調するために、eポートフォリオに入力した学生のみが授業の成績の分布を確認できるようにシステムを改修した。その結果、学生のeポートフォリオ入力率は大きく向上した。(2-3)に関して、2012年から2015年にかけて実施してきた学生調査のデータを分析することで、大学生の成長感は、入学して半期間の間に決まってしまう可能性が示唆された（なお、セミナー・ワークショップに関する詳細は以下のページを参考にされたい<http://www.ap.osakafu-u.ac.jp/katsudou/29katsudou/>）。また、これらの取組みについて、外部評価委員から進捗状況に問題がないことの確認を得た。

補助期間終了後の継続発展に向けた取組

セミナー・ワークショップに関しては、補助期間終了後も継続的に実施し、その成果を学生調査・eポートフォリオによって確認していく。meaQsシステム、eポートフォリオシステムの改修や反転授業を実施するための学習環境の整備は、予定通り補助期間内に完了する予定であり、終了後は、これらのシステムや学修環境を活用するためのセミナー・ワークショップを開催し、継続的発展を図る。

学内外への波及効果

セミナー・ワークショップ、合同フォーラムに関しては、学内外から多くの教職員が参加しており、アクティブ・ラーニング、学修成果の可視化の理解を深めたと言える。また、meaQsシステムは、Moodleに実装したことにより、学内外での活用が広がっている。